

遊びで「人間力」育成

県立大が新プログラム

県立大(小林俊一学長)は、自然や農業と触れ合うことで学生の行動力と創造力の養成を目指す学生支援プログラム「薫風・満天フィールド交流塾」がはぐくむ人間力」をスタートさせた。個人では経験しにくい食品加工作業やクロスカントリース

キー、かまくら作りなど「遊び」をキーワードにした体験により、授業だけでは得られない成果を目指す。

自然の中で遊んだり社会と交流する機会が少ないために学生が社会性などに欠けるとして、プログラムを策定。大潟村の

大潟キャンパスに、活動拠点となる「フィールド教育研究センター」を設置した。

具体的な活動内容は、ホタル採取、きりたんぼ作り、他大学とのネットワーク構築、農家での共同生活など。実体験を通して、コミュニケーション

ン能力や協調性などを身に付けさせたい考え。今月は、季節ハタハタ漁見学と試食、ハタハタずし作り体験、なまはげのケデ作り体験のほか、大みそかの三十一日には男鹿市で「なまはげ」体験を計画している。

十一月から学内で「塾生」を募集。これまでに三十人ほどが参加を希望している。

「以前は当たり前に体験できるような遊びを知らないまま育ってきた学生が多い。体験を経て、感動することの大切さを伝えたい」と話す。

同プログラムは、文部科学省の「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム」(学生支援G.P.)に申請し、選定された。十九年度から二十二年度までの四年間、計一億円の補助金が支給される。